

災害等情報（詳報）

鉱種：金属	鉱山の所在地：岐阜県					
災害等の種類：坑内・取扱中の器材鉱物等のため	発生日時： 平成29年2月13日（月） 14時40分	罹災者数	死	重	軽	計
				1		1
罹災者 年齢、職種、直轄・請負の別、勤続年数、担当職経験年数： 67歳、作業員、直轄、勤続年数及び担当職経験年数：10年						
罹災程度：左橈骨骨幹部骨折(橈骨：とうこつ) 休業48日						
<p>【概要】</p> <p>罹災者は、坑道(軌道坑道、坑道サイズ：高さ2.6m 幅2.8m 側溝：深さ0.4m 幅1.0m)において、共同作業者と2名で使用していないポリエチレン配管(直径6インチ(15cm) 長さ10m 重量38kg)の撤去作業を行っていた。</p> <p>ポリエチレン配管は、1.0m～1.7mの高さに3m前後の間隔で側壁に固定された4本のアンカーの上に乗せられていた。罹災者及び共同作業者は、配管を坑内電車で牽引する作業台車に乗せるため、お互いに合図をして配管をアンカーから坑道の側溝に落とすことにした。(図面及び写真参照)</p> <p>共同作業者は、罹災者も合図に合わせてすぐに配管を落とすものと思い、合図をして配管を1.7mの高さにあるアンカーから外し下に落とした。罹災者は、共同作業者の合図が聞こえ、まだ配管を持って落とす体勢になっていなかったが、共同作業者が配管を落としても罹災者側の配管の先端はアンカーの上に残ると思い合図に対し了解する旨の返事をした。ところが、罹災者の予想に反して配管はアンカーの上で跳ね落ち、罹災者は避ける時間的余裕もなく、配管先端部の鉄製接続金具が左前腕に当たり罹災した。</p> <p>なお、災害発生時は作業員間が約10mと離れており相互の姿は見えずヘッドキャップの明かりのみが見える状況であった。</p>						
<p>【原因】</p> <p>○リスクアセスメントが不十分なため、配管を落とす際の危険を予想できなかった。</p> <p>○作業手順の打合せが不十分なうえ、共同作業における適切な連絡・合図がされていなかった。</p> <p>○配管は永年湾曲した状態で懸架され配管自体が湾曲しており、予想に反して跳ね落ちた。</p>						
<p>【対策】</p> <p>○配管撤去における作業手順書を作成し、鉱山労働者に教育する。</p> <p>○非定常作業時にもリスクアセスメントを行うよう徹底する。</p> <p>○専属の安全推進員を任命し、保安確保のための指摘・指導を行わせる。</p>						
<p>【参考情報等】</p> <p>○作業方法及び手順を定め鉱山労働者に周知しましょう。</p>						

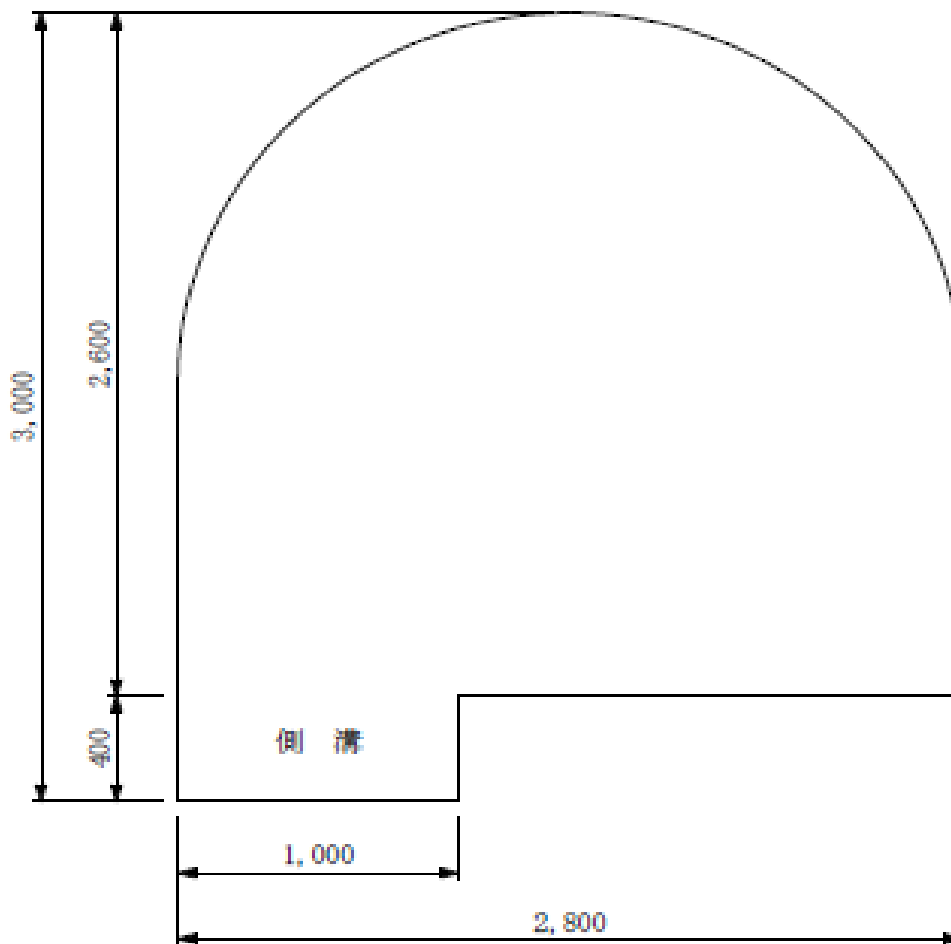
- 非定常作業時にもリスクアセスメントを行いましょう。
- 鉱山保安法令における参考規定は以下のとおりです。
- <鉱山保安法令>
- ・機械、器具及び工作物の使用(鉱山保安法施行規則第12条)

【お問い合わせ先】

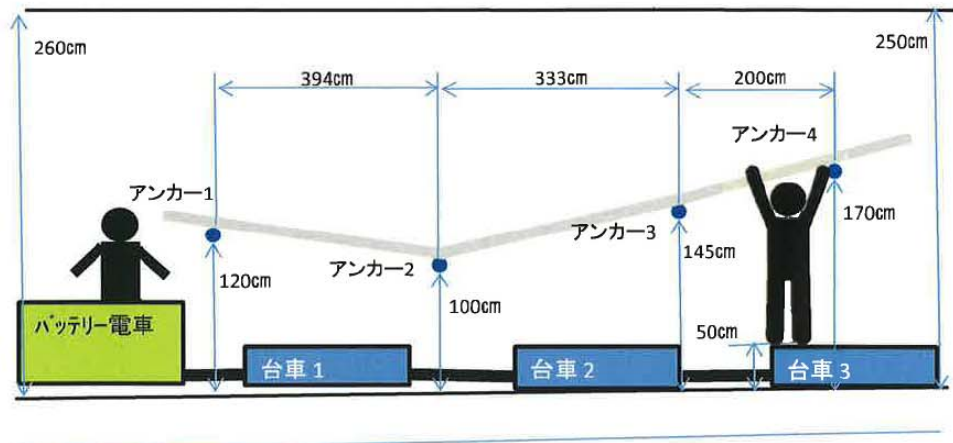
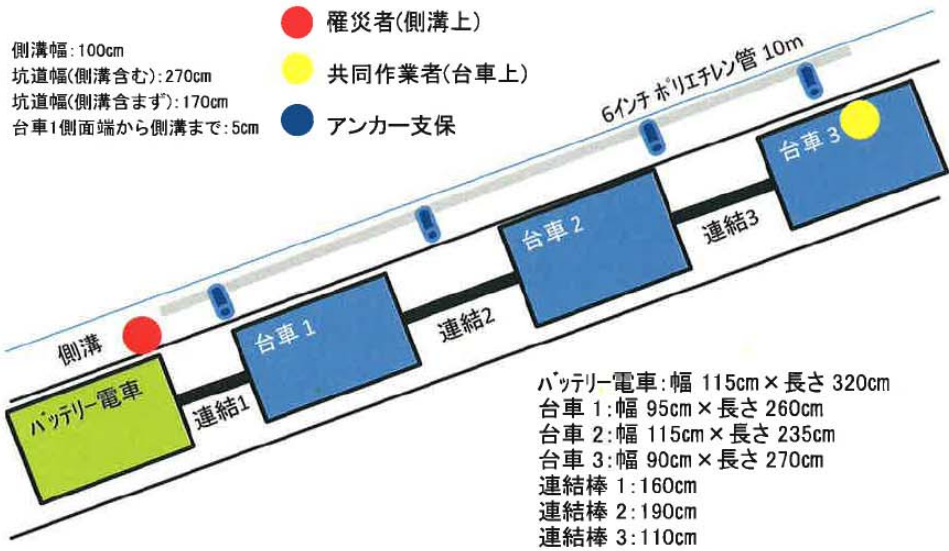
中部近畿産業保安監督部 鉱山保安課 松岡 竹村

電話番号：052-951-2561

坑道断面



災害状況図面



坑道高さ(電池側): 260cm
 坑道高さ(台車3側): 250cm
 踏まえ～台車上面: 50cm

踏前～アンカー1: 120cm
 踏前～アンカー2: 100cm
 踏前～アンカー3: 145cm
 踏前～アンカー4: 170cm

側溝水深(アンカー1地点): 10cm
 ※底にドロが溜まっており水面からドロまでの深さ。ドロを取り除いた場合の深さは27cm。

側溝水深(アンカー2地点): 12cm
 側溝水深(アンカー3地点): 12cm
 側溝水深(アンカー4地点): 10cm

アンカー直径 25mm
 アンカー長さ アンカー1: 56cm
 アンカー2: 56cm
 アンカー3: 50cm
 アンカー4: 61cm

災害現場写真



アンカーで固定されていた配管



落下したポリエチレン管と鉄製接続金具